

# Q & A

問題解決!



南部営農センター  
園芸課

検校 哲也

## Q1

殺虫剤を土壌混和してサツマイモとサトイモを植え付けました。ところが、収穫したほとんどのイモがコガネムシの幼虫に食害されました。対策を教えてください。

## A1

イモをかじってしまう(写真1)厄介な虫がコガネムシです。成虫は、硬い鎧に覆われ、赤、紫、黒や緑色の光沢を有する色をしていること

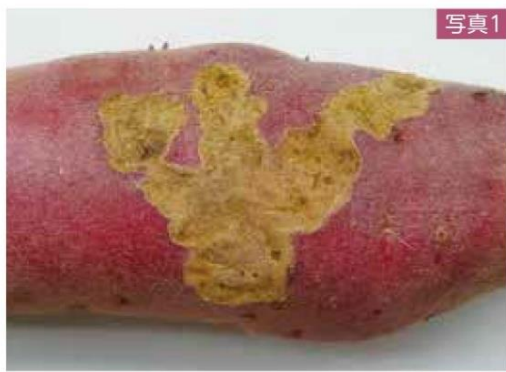


写真1

## 写真2



から、黄金虫(コガネムシ)と呼ばれています(写真3)。

6月ごろに土中に産卵し、7月ごろに孵化します。孵化した幼虫は、土壌の有機物を工々にし、エサが不足してくると、根を食べ始めます。幼虫は寒くなってくると地下深くに潜って越冬します(写真3)。暖

かくなってくると、地上付近に移動して蛹になり、6月ごろに成虫になります。

コガネムシの幼虫は、土中の根を食い荒らします。鉢植えの鉢に産卵された場合、その花や観葉植物がスポツと簡単に抜けてしまうほど根はきれいさっぱり食べられてしまいます。鉢植えのブルーベリーやブドウも被害を受けます。

成虫の薬剤防除は難しく、見つけしだい捕殺します。幼虫は土中にいるため、粒剤を土の中に混ぜるか、液剤を土壌中に散布するようにします。耕していて見つけたら成虫と同様に捕殺します。

## 写真3



鉢植えの場合は土を露出させないようにします。鉢の土が見えていると産卵される可能性があるので、土が露出しないようにダンボールや布などで覆うのも効果があります。

未熟な有機物がコガネムシの好物ですので、畑に使用する土よるこんで卵を産んでいきます。このため、有機物は完熟したものを使用するようにしましょう。

どんな野菜づくりでも言えますが、雑草が害虫の巣になります。畑の周りに雑草があると、コガネムシの巣になってしまいます。できるだけ除草しておくことが、被害を少なくするのに極めて重要です。

サツマイモ畑に土壌混和する殺虫剤は、ダイアジノン粒剤(有機リン系)が一般的ですが、害虫の薬剤抵抗性が付いてしまうと効きません。系統の違うダントツ粒剤(ネオニコチノイド系)の使用をおすすめします。

なお、サトイモの適用農薬は限られていて、植付け前に、ダイアジノンSシズル(25〜50倍、100ℓ/10a)を土壌混

和するか、オンコル粒剤5を幼虫が孵化する7月に追肥培土する時に土壌混和します。

ダイアジノン粒剤及びダントツ粒剤は、グリーンセンター津島店(愛菜耕房)・十四山店(菜々耕房)で取り扱いしておりますので、ご利用の方はお問い合わせ、お買い求めください。



ダントツ粒剤 3kg



ダイアジノン粒剤 700g

オンライン  
農業塾は  
こちら

動画はコチラ



管内の  
病害虫  
情報は  
こちら



家庭菜園  
情報は  
こちら

